

【入選】

人として

荒尾市立荒尾第四中学校 3年 宮崎 真衣

「どうしよう…、このままでは受付の時間に間に合わない」不安で胸が押しつぶされそうになったこの夏、私は人の優しさに触れる体験をして、絆の大切さを見直すことができました。

私は、8月の初めに大牟田市内にある高校の体験入学に参加しました。現地までは公共交通機関を利用するので、前日に時刻を調べて、友達と2人でバスに乗って駅まで行きました。銀水駅行きの切符を買ってしばらく駅のホームで待っていると、予定時刻の1分ほど前に電車が来ました。2人で「この電車なのかな」と迷っているうちに電車は行ってしまいました。「もう少ししたら次の電車来るかもしれない」と思って5分ほど待ってみました。電車は来ませんでした。とりあえず誰かに聞こうと思い、ちょうどホームに入ってきたサラリーマンの人に、銀水行きの電車はどれか尋ねると、「ちょっと待ってね。」と言って急いで調べてくださいました。でも次の電車は約30分後で、これだと受付時間には間に合いません。もう遅れて行くしかないとききめかけていると、さっきの方が自分が乗るドアの所から手招きをして、「この電車に乗って大牟田駅で乗り換えるといいよ。」と、教えてくださいました。私達は急いでその電車に飛び乗りました。大牟田駅では親切に次の乗り場まで教えていただき、私達は何度もお礼を言って別れました。その方の優しさのおかげで、私達は無事に高校まで到着し、体験入学に間に合うことができました。

私は、この経験を通して、どれだけ便利な物ができて効率の良い世の中になっても、人とのつながりや人を想う気持ちを忘れてはいけないということを感じることができました。

最近、スマホやインターネットが当たり前ようになり、さまざまな事が指先だけで済まされる時代です。確かにスマホは便利で、私達の暮らしを楽しくしてくれるかもしれません。でも、あの時私がスマホを持っていたら、あの親切なサラリーマンの人とも出会わなかったでしょうし、このように貴重な経験もできなかったと思います。どれだけ優れた機械よりも、気づけば近くにいてくれる人間のほうが一言では言い表すことのできない人として忘れてはならない大切なことを教えてくれるに違いないと私は思いました。

私たちは人生を終えるまでに、どれだけの人と出会うことができるのでしょうか。その中の会ったこともない誰かが、自分を助けてくれたり、時には自分が誰かの助けになることができるかもしれません。私は、支え合うことこそ人間としての存在価値であると再認識できた経験を大切にしてこれからも生きていきたいと思えます。